

講評

I

出典 浜田寿美男『「私」とは何か』、講談社、1999年

身体による体験から、いかにことばが立ち上がってくるかについて述べた文章です。難しい表現はありませんが、順を追って内容を把握していくことが求められます。

問1【漢字問題】(解答番号は①～⑦)

7問とも正答したのは3%でした。正答を示しておきます。

a 膨大 b 臨場 c きょう d きよむてき e 両義 f ばく g 消滅

問2【空欄補充 文脈把握】(解答番号は⑧・⑨)

空欄Ⅰには「しじゅう何気なく経験している」という内容が入るため、正答は④となります。空欄Ⅱは直前部分で説明されていることから考えると、正答が②となります。正答率はそれぞれ81%、90%でした。

問3【空欄補充 文脈把握】(解答番号は⑩)

これまでの文脈および、この文章の最後の2行に書かれている身体と観念との関係から考えると、観念が身体を縛る、ということが導き出せるため、正答は①となります。正答率は21%でした。

問4【空欄補充 文脈把握】(解答番号は⑪)

「身体でじかに体験」していることと、ことばによって立ち上がる「もう一つの世界」とを対比させており、正答は④となります。正答率は90%でした。

問5【空欄補充 文脈把握】(解答番号は⑫)

[yuki]と「雪」、[kaze]と「かぜ」とが並列で説明されており、無意味な綴りである「かぜ」と対比される「雪」がどのように説明されるかを考えると、正答①が導き出せません。正答率は48%でした。

問6【空欄補充 文脈把握】(解答番号は⑬)

「死」のような身体で体験できないものさえもことばによって受け止められる、という意味で、「雪や風にもひけをとらない」と同義の内容が入ります。正答は②です。正答率は55%でした。

問7【空欄補充 文脈把握】(解答番号は⑭)

死んでしまえば自分の死の経験を語ることができず、出生時には生を経験として受け止める「私」が成立していない、という本文中の内容から、正答②が導き出せません。正答率は53%でした。

問8【傍線部の説明 文脈理解】（解答番号は15）

正答は③です。ことばと身体を対比させた上で、ことばの性質とは違った身体の特徴について述べられています。正答率は60%でした。

問9【内容理解に関する問題】（解答番号は16）

「適当でないもの」を選択するという設問に注意が必要です。本文中に「身体が生きる世界を離れ、それとの関係の一切を断ってしまったところでは、個々のことば自体が意味をなさない」とあり、正答は③です。正答率は47%でした。

問10【小見出し補充】（解答番号は17）

この章では、ことばが身体に根ざしつつも身体を越えるものであるという両義性が述べられているので、正答は⑤です。正答率は35%でした。

問11【内容合致】（解答番号18）

正答は①・⑤です。②は「あたかも生死を経験したかのように語る」、④は「身体を離れて固有の意味を」、⑥は「切り離されてこそ」が間違いです。⑦・⑧は本文中に書かれている内容と異なります。「あっ、雪！」という声だけでは「まだことばの宇宙とまではいえまい」と本文中にあるため、③は不正答です。正答率（完答）は10%でした。

II

出典 乾正雄『夜は暗くてはいけないか 暗さの文化論』、朝日新聞社、1998年
暗い場所における目の働きについて述べた文章です。聞き慣れない用語もありますが、内容を整理しつつ読めば、わかりにくいということはなかったと思います。

問1【漢字の書き取り問題】（解答番号19～25）

漢字の全問正答者はいませんでした。日常から漢字の練習をしておきましょう。

問2【空欄補充 前後の文脈から接続詞を導き出す】（解答番号26～28）

空欄Ⅰは、前段の内容と異なり、瞳の大きさが中心であることから、付け加えの⑥「なお」、空欄Ⅱは「たとえば」も入るようにみえますが、その後のつながりを考えると、文章が読み取れなくなります。正答は⑦です。空欄Ⅲの正答は⑨です。

問3【空欄補充 文脈把握】（解答番号29）

2行前にある「ところが」に着目できるかどうかです。この前後でまぶしさに関する違いが対比されています。

問4【空欄補充 文脈把握】（解答番号30）

黒い眼と青い眼との対比が行われていることを踏まえると、正答は②です。

問6【傍線部の説明 文脈理解】（解答番号は32）

傍線部は日本人が光量を気にする人が少ないことを意味しています。直前に欧米のことが書かれているので、それらを踏まえると、正答は⑥となります。正答率は26%でした。

問7【傍線部の説明 文脈理解】（解答番号は33）

次の段落に「ここから先」の記述があります。この内容を押さえ、かつ明るいときとどう異なるのかということ述べた③が正答です。正答率は88%とよくできていました。

問8【傍線部の説明 文脈理解】（解答番号は34）

傍線部Cの前段落までを押さえた選択肢を選ぶと、正答は③です。正答率は57%でした。

問9【空欄補充 小見出しを付ける】（解答番号35）

第一段落では、虹彩とそれにかかわる目の色の違いについて述べています。両方を満たす選択肢は⑤です。正答率は33%でした。

問10【内容合致】（解答番号36）

正答は④・⑧です。各選択肢の間違ひは以下のとおりです。①身体的な構造が～生物学的に指摘、②虹彩の裏側～一体であることによる（表側と裏側にある）、③欧米人しか気づいていないこと、⑤効果の差が出ない、⑥人の眼にのみ見られる特徴的な機能、⑦一般的に考えられている。該当する個所と照らし合わせれば、難しくありません。落ち着いて解答するようにしましょう。正答率は30%でした。